



『東北圏だより』



復興の足音

復興庁岩手復興局

震災から3年。岩手県内でも、復興の足音が聞こえてきています。

洋野町では、国の復興交付金を活用し、八木地区に防災センターが完成しました。東日本大震災で被災した漁村センターと消防屯所の代替施設として高台に移転新設されたものです。

災害時には住民約200人が避難でき、備蓄食料、シャワー室、バリアフリー設備、オストメイトトイレ、太陽光発電と発電機等、東日本大震災から得た教訓がいろいろ活かされています。

設備面だけではありません。「自らの地域は自らで守る」という精神のもと、消防団や自主防災組織の強化が図られるよう防災教育やコミュニティ活動も行えるようになっているそうです。展示スペースには震災の様子を記録したパネルなども置かれました。

教訓を次の世代へ…被災地全体が未来から受け取った挑戦状かもしれません。



また、宮古市田老（たろう）の撰待（せったい）地区。2年半前、この辺りは一面海水に浸かってしまいました。震災後すぐは田植えができず、岩手県はこの地区で農地の区画整理事業をすることに決めました。個人個人の持っている田んぼを一旦集約して土を盛るなどし、区画ごとの形を整えてそれぞれへ戻すという事業です。土の質が良くなるだけでなく、形状が整うので作業効率がアップします。

長年にわたって土と向き合ってきた農家の方にとっては、区画整理が終わるのは待ち遠しいものかもしれませんが、その分秋の収穫の喜びはひとしおに違いありません。宮古市内のみならず、県のこの事業は、他市町で今も続けられています。



被災者の皆様、民間の組織、被災市町村、県、及び国による積極的な取組み、及び被災地外の方々の御支援により、被災地の復興は進んできております。既に災害公営住宅への入居が始まっている地区もあります。しかしながら、未だ仮設住宅に暮らしていただいている被災者の方もいらっしゃいます。引き続き、復興への取組を、しっかりと進めていく必要があります。

環境省は、青森県八戸市から福島県相馬市までの沿岸約700kmをロングトレイルでつなく、『みちのく潮風トレイル』というプロジェクトを進めています。ロングトレイルとは、地域の豊かな自然や文化を感じながら旅をして歩く長距離の自然歩道です。山頂を目指す登山とは異なり、長い距離を歩き通すことの達成感という魅力があります。また、自分の体力や予定に合わせて挑戦することができ、歩く旅ならではの地域の人との交流や、各地の食や文化との出会いなど、たくさんの楽しみがあります。ロングトレイルの文化が浸透している世界各国では、「世界で最も美しい散歩道」と呼ばれるニュージーランドのミルフォードトラック(約55km)や、毎年5～600人がスルーハイク(起点から終点まで一気に歩ききることに挑戦すると言われていたアメリカのアパラチアントレイル(約3,500km)などが有名です。



▲トレイル歩きの様子

しい散歩道」と呼ばれるニュージーランドのミルフォードトラック(約55km)や、毎年5～600人がスルーハイク(起点から終点まで一気に歩ききることに挑戦すると言われていたアメリカのアパラチアントレイル(約3,500km)などが有名です。



『みちのく潮風トレイル』は次の様なコンセプトで路線を設定します。

- ・復興のシンボルとなるよう地域と協働で路線を設定する。
- ・南北を1本の道でつなく。
- ・既存の道を活用する。
- ・土の感触が残る里道や踏み分け道など、自然を感じられる道を活用する。

路線の検討は、まず青森県八戸市から岩手県久慈市の区間で行いました。ワークショップを各地で開催し、地域の方や関係行政機関の方に参加していただきながら路線の検討を行いました。ワークショップでは地元の自慢の場所やモノなど様々な魅力について意見が出され、それらをつなげることで路線の案を作り上げることができました。関係者のご協力のお陰で、平成25年11月29日に約100kmを開通することが出来ました。今後も、全線開通を目指して各地で検討を進めていきます。



▲一部開通セレモニー(八戸市無島)

3月16日には、トレイルを体験するウォーキングイベントを福島県相馬市と新地町で開催します。参加費無料となっていますので、この機会に『みちのく潮風トレイル』の雰囲気を感じてみてください。

ウォーキングイベントの詳細・お申し込みはこちら

<http://www.tohoku-trail.go.jp/files/20140131.pdf>

『みちのく潮風トレイル』公式サイト

<http://www.tohoku-trail.go.jp>



▲路線検討の様子(相馬市)



▲路線検討の様子(相馬市)

東北地域の成長戦略を議論 ～「東北地方産業競争力協議会」が設立

東北地方整備局 建政部 計画・建設産業課

国の成長戦略である日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）に基づき、東北地域の生の声を吸い上げて戦略の実行に反映させていくことを目的とした「東北地方産業競争力協議会」の設立会合が去る11月19日に秋田市内で開催されました。協議会は新潟県を含む東北7県の知事、有識者、企業経営者及び金融機関等を委員として構成され、東北地方整備局を含む国の各出先機関がオブザーバーとなり、東北各県、（一社）東北経済連合会及び東北経済産業局が事務局となって組織されました。



▲東北地方産業競争力協議会の様子

この協議会は、全国各ブロックにおいてそれぞれの地域毎にテーマを設定して議論していくもので、東北の協議会における基本的な検討事項としては、①地域ごとの戦略産業の特定、②地域に眠る資源の掘り起こし、③地域に必要な産業人材の育成に係る戦略、等が掲げられました。

協議会では各県の知事から、県の施策紹介や方針、本協議会への期待等が示され、内容としては、「農林水産業、観光業、自動車産業、医療産業、ものづくり産業などの振興と育成」、「震災からの復興に向けた新産業の創出」、「太陽光・風力・地熱・バイオマスなどの再生可能エネルギーの利活用」、「農産品・加工食品などの輸出促進」などについての発言がありました。

また、有識者、企業経営者等の各委員からも、地域資源掘り起こしの観点から、東北の魅力発信のための「東北ブランド」の創出や観光面でのオール東北としての取り組みなど、様々な内容の発言があり、今後はこれらの意見等を踏まえて、各主査県を中心にWG（ワーキンググループ）を設置して具体的な議論を行っていくこととなりました。各WGと主査県は以下のとおりです。

- ①「復興からの新産業創出WG」（主査県：宮城県）
- ②「地域資源の新たな魅力発掘WG」（主査県：山形県）
- ③「ものづくり産業の戦略的育成（自動車WG）」（主査県：岩手県）
「ものづくり産業の戦略的育成（医療機器WG）」（主査県：福島県）

各WG毎に議論された内容を取りまとめた上で、協議会としての報告書（案）を作成し、3月に開催予定の第2回協議会で提案される見通しです。

将来的には報告書の内容が政策に反映され、東北地域の経済成長に繋がることが期待されます。

東北並びに他地域の協議会については、こちらをご覧ください。

- ・経済産業省HP「地方産業競争力協議会」

http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/chihoukyougikai/tihoukyougikai.html

編集後記

先般、2月1日仙台市において「復興加速化会議」が開催され、国土交通大臣、宮城県知事、仙台市長他が出席されました。冒頭の大任のご挨拶では、被災地の方々にいち早く復興を「実感」していただくことが重要とのお話があり、復旧復興を円滑に進めるため、様々な方策が示されたところです。

今回、ご紹介している内容も、被災地をはじめ、東北全体の発展に寄与するものとして期待されるものです。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp